

「平成27年度に実施した仕事」の振り返りシート

記入日 平成 28 年 3 月 31 日

仕事の内容	奨学資金貸付事業			
担当部署・課長名	学校教育	課	学 務 係	課長名 岩本 尚史

この仕事は、どの【施策】の課題を解決するための手段ですか。

【施策】 学校教育の充実

(総合計画書 31 ページ)

予算名	款	基金	項	目	事業
<p>① 誰(何)を対象にしていますか。</p> <p>① ①の対象数や量を、あらわすもの(対象指標)</p> <p>経済的理由により就学困難な高等学校または高等専門学校に在学する学生 → 奨学資金貸付申請者数</p> <p>② ①をどのような状態にしたいのですか。[簡潔に]</p> <p>② ②の状態になった数・量をあらわすもの(成果指標)</p> <p>修学上必要な資金が借りられる。 → 奨学資金貸付者数</p> <p>③ そのために何をしましたか。</p> <p>③ ③をどのくらい行いましたか(活動指標)</p> <p>高等学校または高等専門学校に在学し、勉学意欲がありながら経済的理由により就学困難な学生に、修学上必要な資金を貸付ける。 → 奨学資金貸付額</p>					

2 指標の推移			単位	平成25年度実績	平成26年度実績	平成27年度実績	平成28年度目標	平成29年度目標
	対象指標	①の数値	人	2	0	0		
	成果指標	②の数値	人	1	0	0		
	目 標	②の目標値	人			0		
		目標値設定の考え方		真に必要としている人に貸し付ける。				
活動指標	③の数値	人	360,000	360,000	180,000			
3 経費	事業費		円	0	0	0	※人件費の所要人数は、基本的には「人」で表わしますが、一時的な仕事については時間数での表示も可とします。その場合単位を「時間」に変更してください。 人件費(再任用職員以外)年間単価は、8,233,000円 時間単価は、4,200円で計算してください。 【算出根拠】平成26年度決算数値。(退職手当組合負担金、共済費も含む。)	
	財源	一般財源	円	0	0	0		
		特定財源	円	0	0	0		
		(うち受益者負担)	円	0	0	0		
	人件費(目安)	所要人数(再任用以外)	人	0.1	0.1	0.1		
		所要人数(再任用)	人	0.0	0.0	0.0		
		職員人件費(再任用以外)	円	834,000	829,800	823,300		
職員人件費(再任用)		円	0	0	0			
事業費+人件費		円	834,000	829,800	823,300			

この仕事における市の裁量 市の裁量は大きい

4 環境変化	この仕事の開始時期(開始年度)、何を目的に開始していますか。	<ul style="list-style-type: none"> 昭和47年度から開始しており、成績優秀ながらも、経済的理由により就学困難な者に資金を貸付け、有用な人材を育成することを目的としている。 都立学校の授業料は無償化されており、他制度(東京都育英資金奨学金)による奨学金も充実している。
	開始当初と比較し、状況の変化はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> 他制度(東京都育英資金)は、市制度よりも手厚い内容となっており、25年連続して利用者がゼロとなった。 貸付者の中には、消滅時効の期間が経過している場合もあり、回収が難しい貸付金が増加している。
	この仕事に関して、平成27年度中に寄せられた市民・議会等の意見、また、市民・サービス利用者等の実態やその意識について	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度に実施された行政評価(外部評価)において、「市制度と比較して貸付金額等が充実されている東京都の奨学金制度の周知徹底を図り、本制度の利用状況を見ながら、廃止を視野に入れた検討を行う。」こととされた。 他制度についての情報提供・周知により、平成27年度末の貸付者がゼロとなった。 平成27年12月議会において、制度廃止について可決された。
5 市民等の意見		

仕 事 の 内 容	奨学資金貸付事業			
担当部署・課長名	学校教育	課	学 務 係	課長名 岩本 尚史

6 市民協働	(1)市民協働の取組を行いましたか。ある場合は、取組手法の種類から番号を選択しご記入ください。(複数回答可)			
	取組みは無い	取組手法	【取組手法の種類】 ①共催 ②実行委員会・協議会 ③事業協力 ④事業委託 ⑤補助・助成 ⑥情報提供・情報交換 ⑦後援・場の提供 ⑧その他()	
(2)平成28年度に向け、さらに適した協働の形態とするために「考え」「気付いた」点をご記入ください。				
7	この仕事を振り返り、課題を記入してください。			
課 題	貸付に関しては廃止されたが、償還は継続しており回収が難しい貸付金が多く残っており、いかにスムーズに償還してもらうかが課題となる。			
8 今 後 の 方 向 性	(1) 仕事の方向性(「7 課題」を踏まえた具体的な改革・改善案など)			
	<ul style="list-style-type: none"> 平成25年度の行政評価(外部評価)の結果を受けて、平成26年度から奨学金制度の比較検討が容易にできるような一覧表(通知)を作成し、保護者に配布している。 効率、効果的な償還事務を行っていきたい。 			
	(2) 上記(1)の改革・改善案を実現するために、克服すべき問題点、必要な調整・準備等を具体的に記入してください。			
(3) 改革・改善案による期待成果 上記(1)の改革・改善案を実施することで、成果面と経費面で現状からどのように変わりますか。				
成 果	成果を縮小していく。		経 費	仕事の経費は削減する。